

西日本豪雨 突きつける課題

解説

論点スペシャル

兵庫県立大准教授

木村玲欧氏



きむら・れお 専門は防災心理学、防災教育学。京都大学大学院修了。情報学博士。著書に「災害・防災の心理学」「戦争に隠された『震度7』」など。43歳。

人間の心には一般的に、「自分はこれまで普通に生きてきたのだから、大変なことなど起きないだろう」と考えるくせがある。心理学では「楽観主義バイアス」と呼ばれる。

大災害のようなめったに起きない現象に対しては、この傾向は特に強くなる。今回の豪雨でも、特別警報や避難指示など防災情報がたくさん出されたが、これまで被害がなかったからと軽視して、適切に行動できなかった人が多かったのではないだろうか。

いざという時、命を守るには、災害をひとごとと考えず、自分に身近なものと考え、「わがごと意識」を、平常時から身に付けておくのが鍵になる。

岡山県倉敷市真備町は浸水で大きな被害が出た。浸水した地域はハザードマップ(被害予測地図)の想定区域とほぼ重なっており、マップの精度は高かった。ただ、マップが配られても、漫然と眺めるだけでは「わがごと意識」は高まらない。

自分の家や勤め先、学校、よく行くスーパーや病院、いつも歩く道など、生活に必要な所には全てマップに印を付けて危険性をチェックする。実際に歩いてみて、どこがどれくらい水に漬かるか想像すれば、災害を自

「人ごとでない」意識重要

分に引きつけて、とらえるようになるだろう。

警報が出たら、心のスイッチを日常から非日常に切り替えて、いろいろな情報収集したり、周りの様子を注意して見聞きたりする。ハザードマップを見直して、危険の高い所にいればすぐに避難し、危険がない所ならいたずらに外には出ず、停電に備えて懐中電灯を出しておくなどすればいい。

警報が出ても「これまで空振りばかりだったから、今度も外れるだろう」と思い込む「オオカミ少年効果」が働くのか、軽んじる人が多い。だが、警報とは絶対に被害が出ることを意味するわけではなく、災害の恐れが格段に高まったから意識の警戒レベルを引き上げなさい、という情報であり、意味を正しく理解する必要がある。

一方、今回の豪雨に対して、早めに適切な判断をして助かったという成功例も、きつとあるはずだ。報道や地域の関係者で、よい事例を発掘して、なぜうまく対応できたのか、社会に発信してほしい。人は抽象的な情報を与えられても動きにくい、手本があれば学びやすい。

体の状態を定期的に調べる健康診断のように、身の回りの安全性や備えを常に点検する防災診断を、多くの人が生活に取り入れる社会になれば、被害を減らせると信じている。

(編集委員 川西勝)

西日本豪雨 突きつける課題

論点スペシャル

今回の豪雨災害は西日本の広い範囲で洪水や土砂災害が同時多発的に起こった点が最大の特徴だ。個人や法人の所得も含めた総被害額は1兆円を上回るだろう。梅雨や台風時期になると、犠牲者が出る。豪雨災害に対する国土の脆弱性を改めて思い知らされた。

土石流は100か所以上で発生した。被害の多かった広島県は、雨で崩壊しやすい「真砂土」の多い地盤だが、山地の谷筋であれば、どこでも土石流は起こりうる。日本の国土の3分の2以上は山地だ。

土石流対策は、谷筋などの危険地帯には砂防ダムを造るのが基本だが、それが難しいなら、谷筋の土地利用について規制強化などの見直しが必要だ。

京都大教授

藤井聡氏



ふじい、とし 2009年から現職。専門は都市社会学。12年から内閣府参事(防災・減災ニューディール担当)を務めている。49歳。

西日本を襲った豪雨は、平成で最悪の水害となった。なぜ、多くの命が奪われたのか。再発を防ぐには何が必要なのか。私たちの命を水害から守るための教訓を、3人の専門家に聞いた。



土砂の流入で河川が埋まり、氾濫する例も相次いだ(12日午後、広島県坂町坂西の総瀬川で)＝中司雅信撮影

国挙げて治水対策急げ

比べて1・7倍に増えており、今後、豪雨災害は日本のどこで起こってもおかしくない。場所によっては災害は「国難」級となる。例えば、首都圏の荒川の堤防が決壊した場合の経済被害は62兆円に上ると土木学会は試算している。

しかし、日本の河川は、堤防の整備率が欧米に比べて低い。ロンドンのテムズ川の堤防整備は完成し、米ミシシッピ川下流は整備率が8割なのに、荒川はたった3分の2程度だ。

しかも、治水関連予算は、過去約20年間で英米では2倍前後に増えた一方、我が国は半分以上に削減されている。現在の予算水準をせめて2・3割程度拡充できれば、基本的な治水対策は15年以内に完了できるだろう。さもないければ、困難の回避は困難だ。

そもそも災害対策は災害後に終えても意味がない。だから現在の予算水準で、毎年少しずつ災害対策を進めていくのは不合理だ。同じ額を支出するなら、住宅ローンのようにまずは対策を完了させてから、対策の恩恵を受ける将来世代も、費用を公平に負担するのが合理的である。それが世界における災害対策の「常識」なのだ。

(編集委員 吉田昌史)



兵庫県立大准教授

木村玲欧氏

人間の心には一般的に、「自分はこれまで普通に生きてきたのだから、大変なことなど起きないだろう」と考えるくせがある。心理学では「楽観主義バイアス」と呼ばれる。

大災害のようなめったに起きない現象に対しては、この傾向は特に強くなる。今回の豪雨でも、特別警報や避難指示など防災情報はたくさん出されたからと、これまで被害がなかったからと軽視して、適切な行動でできなかった人が多かったのではないだろうか。

いざという時、命を守るには、災害をひとごとと考えず、自分に身近なものと考え、「わがこと意識を、平常時から身に付けておくのが鍵になる。

岡山県倉敷市真備町は浸水で大きな被害が出た。浸水した地域はハザードマップ(被害予測地図)の想定区域とほぼ重なっており、マップの精度は高かった。ただ、マップが配られても、漫然と眺めるだけでは「わがこと意識」は高まらない。

自分の家や勤め先、学校、よく行くスーパーや病院、いつも歩く道など、生活に必要な所には全てマップに印を付けて危険性をチェックする。実際に歩いてみて、どこがどれくらい水に漬かるか想像すれば、災害を自

特別警報の重み周知を

青山学院大非常勤講師

饒村曜氏



ようむら・よう 気象予報士。気象庁で東京航空地方気象台長などを務め、2011年に退職。減災・防災コンサルタント「特別警報と自然災害がわかる本」など。67歳。

関係で日本までやってきた形だ。その状況は、また雨が少なかった7月5日の時点で十分予測されていた。そして、気象庁は「大雨特別警報を出す可能性

がある」と発表し、最大限の警戒を呼びかけた。異例の対応だ。

特別警報は、重大な災害が起きる恐れが著しく高い場合に出すもので、そんな大雨を丸一日

以上も前から予測するのは、ふつうは難しい。私はその日、ある気象予報会社だったが、気象庁の危機感が伝わってきて、皆、ざわざわしていた。その危機感が住民の危機感に

つながったかどうか。が5年前に創設された「特別警報」が出るまでは、ならと誤解されるのを声はあった。今回も「が出たら逃げよう」とがいたかもしれない。したら残念だ。

避難は「大雨警報」でに終るべきだ。特至ると、安全に避難すに手遅れなので、気象難を「ではなく「命をを」と呼びかける。たに面した家から逃げ出合、崖と反対側の2階土砂崩れで家がつぶれめになった場合、崖側いるより救出してもらが少しでも高くなる。



きむら・れお 専門は防災心理学、防災教育学。京都大学大学院修了。情報学博士。著書に「災害・防災の心理学」「戦争に隠された『震度7』」など。43歳。

立大准教授

木村玲欧氏

は一般的に、「自普通に生きてきた変なことなど起きと考える」が「楽観主義」である。

うなめつたに起きしては、この傾向

。今回の豪雨で避難指示など防

がなかつたからと切に行動できなかつたのではない

時、命を守るには、と考える、自分

と考える「わがこ平常時から身に付

市真備町は浸水で出た。浸水した地

マップ（被害予測区域）とほぼ重な

の精度は高かつたが配られたも

だけでは「わがこまらな

勤め先、学校、よーや病院、いつも

生活に必要な所に印を付けて危険

する。実際に歩い

がどれくらい水にすれば、災害を自

つながつたかどうか。特別警報

が5年前に創設された頃から、

「特別警報が出るまでは安全だ

なことと誤解されるのを心配する

声はあった。今回も「特別警報

が出たに逃げよう」と考えた人

がいたかもしれない。そうだと

したら残念だ。

避難は「大雨警報」の段階ま

でに終えるべきだ。特別警報に

至ると、安全に避難するには既

に手遅れなので、気象庁は「避

難を」ではなく「命を守る行動

を」と呼びかける。たとえば屋

に面した家から逃げ出せない場

「人ごとでない」意識重要

分に引きつけて、とらえるよう

になるだろう。

警報が出たら、心のスイッチ

を日常から非日常に切り替え

ていろいろな情報収集したり、

周りの様子に注意して見聞きし

たりする。ハザードマップを見

直して、危険の高い所にいれ

ずに避難し、危険がない所な

らいたすに外には出ず、停電

に備えて懐中電灯を出しておく

などすべき。

警報が出て「これまで空振

りはかりだったから、今度も外

れるだろう」と思い込む「オオ

カミ少年効果」が働くのか、軽

んじる人が多い。だが、警報と

は絶対に被害が出ることを意味

するわけではなく、災害の恐れ

が格段に高まったから意識の警

戒レベルを引き上げなさい、と

いう情報であり、意味を正しく

理解する必要がある。

一方、今回の豪雨に対して、

早めに適切な判断をして助かつ

たという成功例も、きつとある

はずだ。報道や地域の関係者で、

よい事例を発掘して、なぜうまく

対応できたのか、社会に発信

してほしい。人は抽象的な情報

を与えられても動きにくい、

手本があれば学びやすい。

体の状態を定期的に調べる健

(編集委員 川西勝)

というのは、それほど切羽詰ま

った事態なのだ。

特別警報を創設した際の法律

で、発令された場合は住民に周

知することが、市町村に義務づ

けられた。自治体の防災担当者

らは、警報の段階から「特別警

報になるかもしれない」という

緊張感をもって、避難を呼びか

けているはずだ。

局地的には、今回ぐらいの強

い雨が降ることは珍しくない。

(編集委員 増満浩志)

10代って面白い。いつの時代だって。

読売中高生新聞

10代を、もっとアツくする。

読売中高生新聞

中高生向け新聞販売部数No.1*

毎週金曜発行 / 月額780円(税込み)

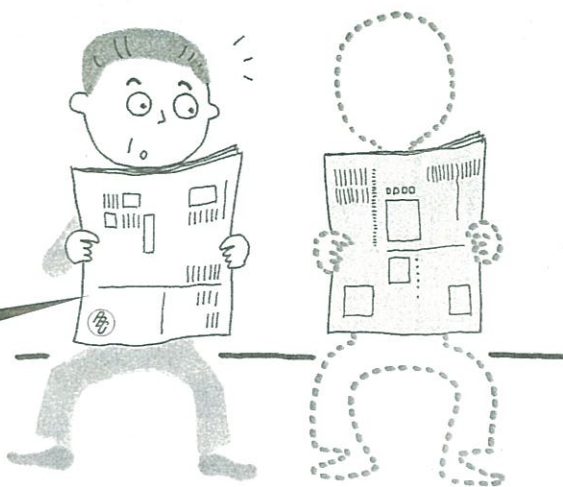
読売中高生新聞

*日本ABC協会「新聞発行社レポート 半期」2017年7月～12月平均より

名証		12日、単独上場のみ	
銘柄	前日比	第二部	第一部
・東証工業	2200	・北川工	1383
・アパコ	750	・アスカ	965
・ジャニス	175	・尾張精	3350
・ニコ	159	・福島印	460
・美濃産	580	・オリバー	2160
・中央	575	・ヤガミ	1950
・丸	812	・トーカン	1980
・AM/イン	121	・名木材	1840
・カネソウ	4570	・東海エ	3100
・知多興	905	・カンフ	970
・旭精機	2500	・中部水	2655
・富士精	393	・マルイ	1188
・富士電	313	・リビ	917
・中興	988	・M/V中	1451
・東洋電	1019	・ヤマナ	1123
・中央紙	1438	・A1グレ	2929
・中央製	1322	・大宝	3825
・名	1749	・MXS	2898

ABC部数は
読者が見える
数字です。

当紙の
部数は
ABCが確認
しています。



合理的なマーケティング・広告活動には、
正確な部数の確認が欠かせません。
ABCは、第三者機関として新聞・雑誌の部数を公査し、
発表しています。

一般社団法人日本ABC協会 新聞雑誌部数公査機構
Japan Audit Bureau of Circulations
<http://www.jabc.or.jp>